

## 第五、六回教化学研究集会発表要旨

### 修法布教私見

神谷行精

(奈良・妙宏寺住職)

私の寺の開山は、尼僧で私の祖母に当る。素晴らしい靈感の持ち主で、何万人と云う方々を教化された。妙宏法尼が亡くなられ、その後法灯を継承させて頂いたが、年も若く自分に何の徳もなかつた為、法尼が教化された信者や檀信徒がだんだんと減つていった。師匠や叔父によく聞いていた。靈感によつて教化された寺は、お経やお題目をしつかりとあげないと、その寺は、つぶれてしまふと。その通りになつてきた。私は、お経を誦誦する事も、お題目を唱える事も忘れ、ただ、自分達の衣食住をする為のお金が欲しい、これだけが頭にあつた。檀家へ

回向に行つても僅かしかお礼をもらえず、子供のミルクも買えない状態であつた。この時、法尼が少しでもお金を残してくれたらと思つた。約五年の間、酒を飲み喧嘩をして家族の者にいろいろと迷惑をかけ、焦れば焦るほど泥沼に入つていった。法尼が生前よく言われ、「朝早く起きてお経を読め」、その言葉を思い出し、ふと、我にかえり、今迄の自分の行動が恥かしく情けなくなり、これから心を入れ替えて、やりなおそうと決心した。大好物の牛肉を断ち、タバコをやめ、夏は四時から朝勤、冬は四時半からお経を誦誦させて頂いて現在に至つていゝる。時間の許す限り本堂に入り、布施のないお経を誦誦させて頂いている。夜半には、お墓と氏神様へお参りして、千題目を唱へ、寺へ帰つて水行をし、檀家で亡くなると、一日目は朝までお通夜をし、二日目のお通夜には朝方湯灌をさせて頂いている。少しづつ生活も楽になつ

てきたが、まだまだ苦しい日々だった。荒行堂に入行したい、私も叔父の様な立派な修法師になりたい、そういう気持が一日一日と広がってきた。家族の者も、私達はお粥をすすってでも頑張るから、といってくれたので決心がついた。荒行入行出発二、三日前、ある方が羽織、袴姿でこのお金で入行して下さい、とお祝を頂戴した。

その時の有難い気持は生涯忘れる事の出来ない、何百万円頂いた程、高額に感じた。入行しても持前の短気な性格で喧嘩早く、行をしに行っているのか、喧嘩をしに行っているのか分らない状態であった。成満して帰山しても檀家の心は前と同じであった。再行こそはしっかりと頑張って修行しようとして入行した。やはり短気な性格はおさえきれず初行と同じで喧嘩早くどうにもならず、成満帰山したが、檀家の心はいっこうに変らなかつた。三行こそは本当に気を長く持つて修行させて頂く、と仏前で誓って入行した。私は私なりに一生懸命行をさせて頂いた。帰山すると、有難い事に、檀家の気持は一転して私の意見も聞き入れてくれる様になってきた。私はこの時、人は騙せても、仏様は騙せないと思つた。それから

は今迄以上にお題目修行に精進している。去つて行つた方々も、だんだん寺へお参り頂く様になった。十年前、法尼が少しのお金でも残してくれていたらと思つた事があつたが、法尼が何にも変え難い、「人間は努力せよ、徳は取りに行くものでなく、与えられるものだ。しっかりとお経を読め」と、教えてくれたのだと感謝している。私も法尼の様に子供達には財産を残さず、お経を貯金して、徳を積んでおこうと思つている。お蔭様で再再行にも入行させて頂き、帰山と同時に客殿の建設、駐車場の設置と、今迄、思つてもいなかつた事が着々と進んでいった。縁あつて五行にも入行させて頂き、病身であるが、修法一筋に邁進している。妙宏寺立正青年会も発足させ、二、十数年来、毎月第三日曜日は青年会の日と決め、会長はじめ、会員達が唱題行・座談会・スポーツ・大掃除・旅行・合宿と、その月々に合わせて予定が組まれている。また五月・十一月の身延七面山参拜のお世話や礼祭時のバスの送り等、檀信徒から信望を得ている。私も、次代を担う若い人達が、寺へどんどんと来て頂き、寺門発展を願つて指導にあたつている。妙宏法尼命日、毎月二十

一日が婦人会の日となっている。礼祭は毎月二日、各班の御祈禱は毎月四日・九日・十日・二十四日・二十六日に大黒尊天祭を行なっている。年中行事は、星祭・春秋両彼岸・お盆施餓鬼・お会式・土用頭痛等御祈禱に命をかけ、法に傷をつけないよう精進している。七年前から十カ年計画で新本堂建設に向って着々と進み、昭和六十二年一月二十一日、妙宏法尼三十三回忌には完成予定となっている。法尼に教化された、信仰の熱心な檀信徒達の心よりのご協力に感謝し、私も仏祖三宝に給仕奉公をさせてもらっている。十年來続いている朝参りの唱題行「朝六時」も、一人、二人、と増え、三歳から七十五歳迄の善男善女が二十名、又日曜日には五、六十名余り参拝されている。夕勤七時からは家族揃って、二歳、三歳の孫達も小さい団扇太鼓を叩き、まわらない口調でお題目修行に励んでいる。仏祖三宝の教えを守り、檀信徒と一丸となって命の有る限り修法布教に、この身を捧げたいと思っている。

## 兵庫県西部社会教化事業協会が 取り組んでいる現状

大 岩 祥 峰  
(兵庫・妙勝寺住職)

従来、社教会というと、教誨師・保護師・民生委員等、社会的役職を中心とする運営であり活動であった様であるが、昭和五十八年より、従来の活動も当然重要な布教活動分野ではあろうが、宗務総長の呼び掛けもあり、「家庭児童相談所の開設」等多方面に活動を活発化させようとする動きの中で、社教会長と云う役職に任せられ、私のような経験の薄い者がどの様な活動をしようかと案じていたのである。平素より組寺として良き助言者であり、保護司でもある姫路市林田の宝塔寺住職増井恵広師に相談し、師を事務局長として引受けて戴き、管区を中部・東部・北部・西部の四地区に分け、その地区に一名づつの教導師を選出して、地区幹事になっていただく人事の骨子を作った。

兵庫県西部社教会は、

○事務局長の増井師が中部地区を兼任

○東部地区幹事として、管区日青代表であった加西市

円融寺住職の山口忠信師

○北部地区幹事として、夢前町教育委員会の教育課長

として現在活躍中の後藤恵雄師

○西部地区幹事として、私共の組寺中若手ではあるが、学識行動共に期待している竜野市竜光寺住職石原定

昭師

以上の四師を宗務所長に具申し、私を入れて五名の教導師のメンバーで発足した。この地区幹事が、それぞれの地区を代表し、全寺院（全会員）間の連繫、パイプ役となって運営の円活と活動の協力とその徹底を計れる様にした。以上が私共管区内の社教会の組織である。

第一回管内社教会総会を持ち、以下、活動計画を立案し実践に踏み出した。

(一)立正福祉会の家庭児童相談室の開設

宗門中央部よりの推進指導によるものではあるが、当管区には、幸にして数年前より家庭児童等に関する「なやみ事相談」に応ずる為に、テレホン説教を開設し、広

く門戸を開き指導・実践の布教経験者である赤穂市の妙典寺が先づ開設され、続いて、姫路市林田の宝塔寺と既に二カ寺が開設指導に当っており、更に管内の北部に設置希望の寺院があり、近い将来、三カ寺となり、またこの三カ寺が一箇所に片寄ることなく、管区を丁度三分する理想的な配置状況で管内寺院の良き相談・指導の役割を果して下れるものと期待している。

(二)管区内日蓮宗檀信徒相互扶助を目的とした「新鮮

血液提供者募集」

この活動を計画した動機は、管内の寺院の檀家に二十七歳の男性がおり、心臓の動脈瘤という難病にかかり、医師は手術をしなければ絶対に命がない事を家族に言渡したのである。しかも、心臓の大手術には普通の献血された血液でなく、新鮮な血液が二万cc必要であり、その必要血液の目当が出来れば手術を致しますのでお申し出て下さいとのことであった。その当時、一人の採血可能量が二百ccであったから、百人の同型血液提供者が必要で、これだけの人数確保は大変な事である。幸にして、患者の就職先が大企業で、会社で呼び掛けられ十分

な血液が得られ、無事大手術も成功し、現在元気に感謝の日々を送られ、寺への参詣も欠かさぬ様になったのである。その寺の住職も新鮮血液の提供者であるが、その住職は、今度の手術の方が同僚の少ない小企業に務めていたり、自営業・農業従事者であつたら手術も出来なかつたのではなからうか。もし出来る事ならば、社教会の活動として、せめて同じ日蓮宗の信仰する者同志だけでも、いざという場合、助け合いたいものだという申し出があり、この活動を取りあげ、計画の第一に置いた訳である。

#### (イ)募集方法

数回の会合を持ち、募集要項を作り、昭和五十八年八月の兵庫県夏季講習会の席上、管区住職にこの活動の主旨を説明し、各寺院を通じ檀信徒に配布、協力を依頼した。これが最初の呼び掛けである。第二回目からは、統一信行会・特派布教・檀信徒協議会とあらゆる機会を利用し、申し込み書の配布とその協力を呼び掛けており、殊に年の替りには、全加入者に挨拶状を送り、継続加入を依頼している。

#### (ロ)事務的処理（名簿作成とその保管）

会長  
各寺院別登録者名簿  
血液型別の全登録者名簿を保管

地区幹事―血液型別の全名簿を保管

加入者のある寺院―自坊の登録者名簿を保管

#### (ハ)運営

新鮮血液を必要とする場合には、家族より檀那寺に申し出てもらい、その寺院の登録者で足りる場合は、寺院より直接登録者に依頼する。不足の時は、その寺院より該当地区幹事に援助の依頼をし、その地区の登録者に依頼をする。この場合、登録者に依頼するのはその寺院を通ずるものとする。それでも不足する場合は、その地区幹事より他の地区幹事に連絡し援助を依頼する。この場合も、前述の如く、登録者の属する寺院を通じて依頼することを原則とし、血液提供の申請のあった場合は、提供の有無を問わず会長に連絡、報告をすることにし、また、一地区で献血の実施された場合、報告を受けた会長は、他の幹事にその旨の連絡を密にして置くこととしている。尚、献血に際して一切の代

償は求めない事になっている。

現在加入者数 四三二名

申請回数二件、しかし採血は不要。

今後の課題と問題点は次の通りである。

課題は、現在、登録者のある寺院は二十カ寺で四十八パーセント、また、寺院によつては二、三名の登録者しかないといった現状であり、将来、全寺院より多くの登録者を獲得しなければならない。

問題点は、この運用は、新鮮血液によつて助かる手術（手術の成・不成功でなく、医師の事前の判断）の場合に限られたものである。申請される人が十分これを理解されていないと、申請はしたが断わられたと感情のもつれとなり、この活動が布教面にマイナスをもたらす恐れがある。

以上の課題と問題点も含まれているが、将来、努力によつてこの輪を広げたいと思つている。

(三) 老人ホーム対象物故者慰霊法要

法要布教・言説布教を目的として毎年一回、老人ホームに於て物故者慰霊法要を奉仕の形をとり実施。本年は

姫路市白鳥園に於て三月二十日に実施した。入園者並に勤務者に感謝され、喜んでいただいている。

(四) 声の本（テープによる布教）

寺に行きたくても行けぬ、法話が聞きたくても聴聞出来ない人々、即ち施設や老人ホーム等を対象に、簡単でわかり易い法話・祖伝・仏伝等を作成、配布する。本年は、十巻作成し、老人ホーム十カ所に寄進した。

## 如何にしてお題目総弘通に 取り組んでいるか

——百万遍唱題修行について——

菊池泰瑞

(大分・法華寺住職)

① その発端と趣旨

「お題目の輪をひろげよう」をスローガンに、如何に信徒に、さらに未信徒に唱えさせるか。「無信有解・無信無解」の大眾に対する唱題行は如何に有れば良いか、ただ摸索の数年が過ぎた。

心からの発心でなく、自利・利他のみの題目はすぐに